

身近な人の知恵ことば

中津市長 奥塚 正典

「ならぬ堪忍するが堪忍」。祖母が私に言った言葉です。子供の頃、どうしても腹の虫がおさまらず人に当たったことがあります。今から思えば、一時の感情を抑えられなかったのです。普段は何も言わない老婆が孫の行き過ぎをやさしくなだめ諭し、世の中というものを教えようとしたのでしょう。

「失くしたものは、あなたの身代わり・守り神」。落とし物、忘れ物をして出てこない時、自分の身代わりになって守ってくれたと考えて気持ちを切り替えなさい、こんなふう知人の年長者から慰められたことはありませんか。

どちらも、どうしようもなく気持ちの置き所がない時に、身近にいる人生の先輩が立ち直る知恵を授けてくれているのです。

話は少し違いますが、子育てに奮闘苦戦中の若いパパ・ママにおじいちゃんが言いました。「子育ては大変だね。子どもの振る舞いに腹が立って怒りが爆発しそうになった時は、5 分間待ちなさい。それでも怒りが変わらず増すようなら怒ってよい。少しでも怒りが静まるなら怒らずに、怒らない自分を褒めてあげなさい」。可愛い孫をかばったと言えなくもありませんが、若いパパ・ママに冷静に育児法を導く絶妙な言い回しですね。

昨今は、ともするとキレやすい社会的風潮があると言われ、心痛む事件も発生しています。一步立ち止まり自分を見つめなおす時間をもつとよい知恵に巡り合うのかもしれない。

ついでながら、私、祖母の言葉を忘れずに、仕事には厳しくても部下にはできるだけ平静を保って接してきたつもり。内心おだやかならぬ時もしつかり話を聞き、5 分間ではなく 1 時間経っても気持ちが収まらない時だけ胸にたまったマグマをほんの少し噴出させることにしています。そうでもないよと思う職員がいれば、一言優しく「かんにんえ～」。

